

第2回疫学セミナー

『疫学—新型コロナ論文で学ぶ基礎と応用』の著者解説

—ランダム化比較試験からプラットフォーム試験への進化—

開催日時: 2022年4月23日(土) 13:00—14:10

開催形式: Zoomウェビナー

ライブ配信とオンデマンド視聴(セミナー後28日間)

講師: 坪野吉孝(東北大学大学院客員教授)(略歴は裏面)



参加費:

私費参加: 1,000円

公費参加(研究費・経費等): 10,000円

・第1回は多数のご参加を頂きましたが、事務経費を差引くと赤字でした。研究費やご所属先の経費でのお支払いが可能な方は、ご協力頂ければ幸いです。領収書と参加証明書を発行するほか、証拠書類としてセミナー画面のキャプチャ等が必要な場合は、なさって頂いて結構です。公費支払いの手続きが煩雑な場合は、私費でのご参加ももちろん歓迎いたします

申込み: 右の申込用QRコードを読み取り、お申込みください

または下記URLよりお申込みサイトに接続ください

<http://bit.ly/3u17tD7>

【お申込用QRコード】



申込み締切: 2022年4月22日(金) 12:00

テキスト:

『疫学—新型コロナ論文で学ぶ基礎と応用』(坪野吉孝著・勁草書房)

第II部6章『パンデミックの時こそ、緊急性と科学性を両立させる—デキサメタゾン』(p198-217)

・御購入頂かなくても内容を理解頂けるように解説します

その他:

- ・申込手続き時と当日のチャットなどで質問をお受けします
- ・Zoom画像の録画や音声の録音は控えてください
- ・領収書は支払い完了後に送信されるメールよりダウンロードいただけます
- ・参加証明書は支払い完了後およびセミナー終了後に送信されるメールより、4月23日(日)15時以降にダウンロードいただけます

事務局・問合せ:

〒112-0005 東京都文京区水道 2-1-15

株式会社勁草書房 コミュニケーション事業部 内

E-mail: epi-seminar@keiso-comm.com

Web: <https://www.keiso-comm.com/epi-seminar/>

疫学 EPIDEMIOLOGY

新型コロナ論文で学ぶ基礎と応用
Basics and Case Studies
from the NEJM Covid-19 Articles

Yoshitaka Tsubono
坪野吉孝

勁草書房

基本用語から最先端技法まで網羅!

世界を代表する医学専門誌に掲載された
新型コロナ論文を読み解きながら、
疫学の考え方を非医療者も理解できるようわかりやすく解説。
データと論理と知性の力によって無数の人々の生命を救う、
疫学の成果と課題を知るために。

keiso shobo

第2回疫学セミナー

『疫学—新型コロナ論文で学ぶ基礎と応用』の著者解説

—ランダム化比較試験からプラットフォーム試験への進化—

ごあいさつ

先日開催した第1回セミナーでは、NEJMに掲載された新型コロナの疫学論文のなかでも、私が「もっとも美しい」と感じた、イスラエルの集団接種の論文を取り上げました。今回の第2回セミナーでは、私が「もっとも心打たれた」論文を取り上げます。パンデミック初期の2020年の春、英国を襲った第1波のなか、あふれる患者で医療崩壊が生じ、多数の医療従事者も犠牲になりました。有効な治療法も明らかではありません。

そんななか、英国全土の臨床医が協力して、複数の治療薬についての大規模なランダム化比較試験を始めました。2020年3月の研究計画書の公表から、わずか3カ月あまりで結果の第一報が公表され、副腎皮質ホルモン的一种であるデキサメタゾンによる入院患者の死亡率低下が示されました。第一報の公表から、正式にNEJMの論文として掲載されるまでの約8カ月の間に、世界で100万人の生命を救ったと推計されています。

短期間で成果を産み出した背景には、この研究が古典的なランダム化比較試験より進歩したの方法を採用したことがあります。

セミナーでは、英国の医師たちが、医療崩壊の中で必死に新型コロナ患者の診療に当たるかたわら、大規模なプラットフォーム試験に参加しデータを提供して、デキサメタゾンの有効性を明らかにし、無数の患者の生命を救うに至った感動的な物語を、その科学的な革新性とあわせて紹介します。

みなさまのご参加をお待ちしています。

坪野吉孝(セミナー講師)

講師略歴

1989年東北大学医学部卒業。国立がん研究センター、ハーバード大学公衆衛生大学院などを経て、2004年東北大学大学院教授(医学系研究科臨床疫学分野・法学研究科公共政策大学院)。2011年より精神科臨床医。現在、東北大学大学院客員教授(医・歯・法)・早稲田大学大学院客員教授(政治学)・国立がん研究センター客員研究員(予防研究部)。筆頭著者の論文としてNEJM、JAMAなど。NEJM日本国内版監修。

Twitter: @epidemia_jp

